



老若男女が集まる「どい書店」を支えるメンバーの皆さん



小山田さんが企画した「そしてこれから和紙の旅」のワンシーン

— クローズアップ — CLOSE-UP 地域おこし協力隊

地域おこし協力隊の岡山さんと小山田さんが、3月末に任期を終えて退任しました。たくさんの人々との出会いに感謝する二人に、活動への思いや今後の取り組みなどについて聞きました。

Interview

これからも大好きな小田でたくさんの人を「おもてなし」

地域おこし協力隊になってから、あつという間の3年間でした。最初は空き店舗だった旧土居書店を「どい書店」にして活動を開始。皆さんに立ち寄ってもらえる場所にするため本を集めたり、イベントを開いたりしました。情報発信や外国人の受け入れも積極的に行い、1年間で4000人が訪れる場所になりました。

2年目からは拠点整備に力を入れました。移住者や小田地域の若者と銀行跡地をシェアオフィスに、旧旅館をシェアハウスにしました。どい書店の飲食営業を取って喫茶店を開いたり、小田分校の高校生と一緒にキッチンカーを作ったりもしました。3年目にはシェアハウスの本格的な運営が始まり、常に3人以上の居住者がいます。3年間で移住者が10人、空き家の活用は8棟増えました。移住者にはクリエイターが多く、互



Hiroaki Okayama
ひろあき 絃明さん
岡山 =小田下=

いのスキルを組み合わせた仕事も生まれています。新型コロナウイルスが猛威を振るう中でしたが、収益を生む事業を少しずつ増やすことができましたし、町にも利益が生まれています。

今は郷土料理や米の販売など、「食」についての取り組みを続けています。小田の町に「おもてなし」を増やすことが目標です。大切な人と訪れたくなるような、おいしい煮物や美しい風景、楽しい催しがいたるところにある「おもてなしの町」にしたいです。道の駅や商店街を盛り上げたい、農家のおばちゃんとも一緒に何かしたい……。夢は膨らむばかりです。学生時代やこの3年間で得た知識を生かして、これからも小田のまちづくりに取り組みます。今後とも町内の皆さんとたくさん話をしながら、内子町をより暮らしやすい町にできたらと思います。



子どもたちに大人気の岡山さんとどい書店



休耕地を活用したそばの栽培にも挑戦



地域の勉強会の会場にもなる「どい書店」

Interview

自然の心地よさとワクワク感をイベントと暮らしの中に

私は2年間、農村地域全体をフィールドとして活動してきました。内子町内外の交流人口や関係人口を増やすために、オンラインとオフラインの双方を利用した魅力発信を続けています。

オンラインでは主に「内子町を知らない人」や「遠方に住む人」に向けて、SNSなどで美しい里山風景や魅力あふれる人々の紹介をしてきました。オフラインでは「そとで、ここで」という食とものづくりを自然環境の中で楽しむイベントや、「そしてこれから」という和紙と里山をめぐる旅、家族で自然を楽しむ「親子旅」などの体験プログラムを企画・実施することで、自然環境に身を置くことの心地よさや内子町の美しさを伝えてきました。中でも「そとで、ここで」は、思入れの強いイベントです。コロナ禍でしたが、知らない人と一緒に同じ時間と空間を共有しながら、



Mai Oyamada
まい 麻衣さん
小山田 =小田下=

ら、いかに楽しんでもらうかを考え、最初は2つの事業者と参加者20人のワークショップからの始まりでした。徐々に関わる人が増え、SNSでも認知されたことで、6回の開催で約650人が参加しました。自然に目を向ける時間の大切さを伝えるために、内子町の美しい自然を素肌と五感で体感してもらうために、協力隊退任後も開催していきたいと思っています。

内子町の美しい風景は、ここに暮らしてきた皆さんが自然を大切に、上手に共存してきたからこそそのものです。私もこの豊かな自然を次世代につなぐために、自分の興味や得意を活かしながら、ワクワクする暮らしを日々続けていきたいです。いいものを共有して、いいものが続く、そんな暮らしを体現することで内子ファンを増やしていきたいです。2年間ありがとうございました。



紅葉の小田深山で「そとで、ここで」を開催



食と自然と一緒に味わう企画が大好評



里山をめぐる旅はすてきな空気感に包まれる